

令和2年度第3回東海村（仮称）歴史と未来の交流館展示監修委員会 会議録

1. 日時	令和3年3月25日（木）13:30～15:00
2. 場所	（仮称）歴史と未来の交流館 活動室2
3. 出席者	高橋修委員長，塩谷修副委員長，菊池芳文委員，安嶋隆委員，益子美由希委員，萩谷信輝委員，林圭史委員，小野寺淳委員，宮田裕紀枝委員，瓦吹堅委員，佐々木啓委員
4. 欠席者	高橋裕文委員，宮内教男委員
5. 議題	（1）展示制作物の設置について（資料1）
6. 結果	交流館展示室1・展示室2の制作物を実見し，了承。

主な発言内容（委員）

- ・展示室1は，生き物の暮らしぶりが感じられるような展示室にしたかった。生き物の生き生きした感じが伝わる展示となってよかった。
- ・これからの教育というのは机上の学習ではなく，活動的な学習をすることを国は求めていると聞いている。学校の現場ではできない難しい内容を，多分この施設がその重要な役割を担うのではないかと大いに期待している。
- ・これからこの施設が東海村の雰囲気を出せるかということはこの施設のひとつの大きなテーマだと思う。雰囲気というのはやはり大事。東海村の昔とか，今とか，未来とかを考えながら活動を展開して行ってほしい。
- ・なぜ博物館というのは未完成でなく完成形で考えなければいけないのかと言われたことがある。ディズニーランドは今でも未完成であると。そういった未完成の博物館を目指そうと，展示もいつ来ても同じではなくて，春夏秋冬を感じられるものにしたいという思いが生きてよかった。最近の傾向としては，文科系と自然系の博物館が分かれているが，東海村では自然の中で歴史が培われてきたということを感じてもらいたい。
- ・村民にとってはここを東海村の文化の中心にして東海村の文化を発信していければいいと思う。
- ・近現代は療養所や原子力といった，少し触れるのが難しいような，いろんな意見が分かれて存在するような難しいテーマが多く，一つ一つの文言についてどういう風に扱うかなど，すごく難しかったと思うが，きちんと事実立脚する，一つの視点だけではなく多面的にとらえるとし，非常にいいものができたのではないかと思っている。
- ・この施設を「博物館」ではなく「交流館」という名前にあえてしているのが非常に大きい意味があるのかなと思っている。自然から民俗まで全てが網羅されていて，そこに市民の方はじめ多くの方が集ってきてほしいという思いが村長をはじめ皆さんの中にあるんだろうと思うが，それは非常に難しい。どういう風に多くの方に来てもらえるか，その仕掛けを作っていかなければいけない。特に，中学生・高校生・世間で働いている方に忙しい中来てもらうのはとても難しいことだと思う。ここに何らかの憩いを見いだせるような工夫をしていければいい。
- ・30年以上博物館で仕事をしているいろんな苦労があったが，その中でも一番苦労したのが保存環境で，何をしても博物館は保存環境が大事。保存環境を整える地道な努力を開館後も続けてほしい。
- ・村民の方に分かりやすく情報を提供するという一方で，博物館は学術研究，文化財調査の基幹施設でなければいけない。学芸員の皆さんが専門的なことについてしっかりと知識をつけて，誰にも負けないというくらいになれるような時間が取れるように配慮いただきたい。村民の方も大きな期待を寄せてっしやいますし，我々も大きな期待を寄せてこれからこの施設を見つめていくことになると思っていますので，是非その自覚をもって素晴らしい館にしていっていただければと思います。我々もできるだけお手伝いをしていきたい。